



取扱説明書

■レシプロコンプレッサ

TWP02-8C

TWP02-8M

TWP04-8C

TWP04-8M

このたびは、レシプロコンプレッサをお買い上げいただき
ありがとうございました。

- ご使用になる前に この『取扱説明書』をよく読み、その内容に沿って
正しくご使用ください。
- お読みになった後は、本書を大切に保管してください。

※ご使用になる前に、必ず下表の空欄に必要事項をご記入ください。
修理・サービスの時に必要となり、お客様のお役に立ちます。

形式 MODEL	
製造番号 SERIAL NO.	
購入先	
購入年月	年 月 日
使用開始日	年 月 日

残留リスク




■ 機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスクマップ (略称: 残留リスクマップ)

製品名: 「TWP02-8C」, 「TWP02-8M」, 「TWP04-8C」, 「TWP04-8M」

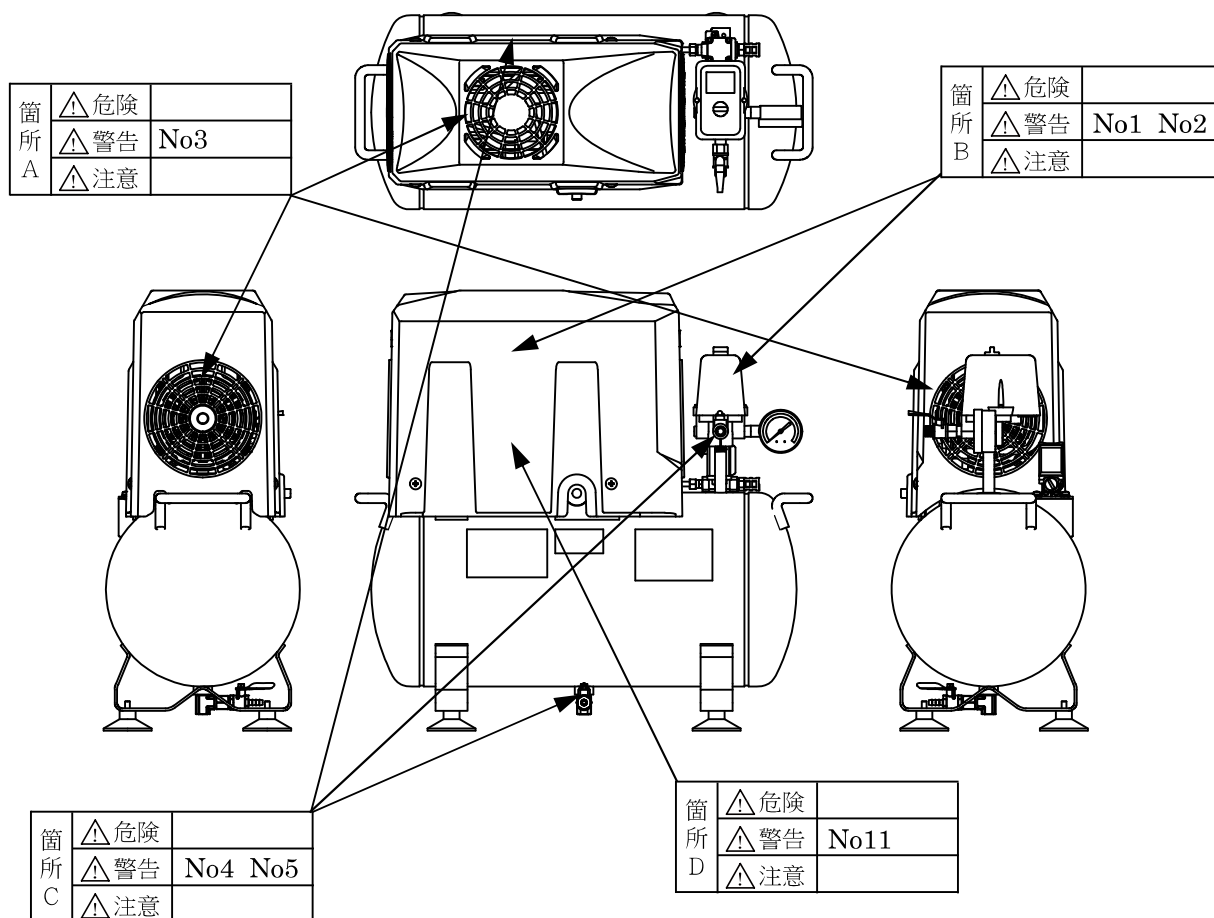
2018年10月19日 作成 アネスト岩田株式会社

※必ず取扱説明書をよく読み、理解してから本製品を使用すること。本資料は取扱説明書の参考資料であり、本資料の内容を理解しただけで本製品を使用してはならない。



残留リスクは、下記の定義に従って分類し記載している。

- ・  危険: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が高い内容
- ・  警告: 保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容
- ・  注意: 保護方策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容

図中に示されている箇所の記号及び番号は、本製品の「残留リスク一覧」に記載されているものと一致している。各々の残留リスクの詳細については、「残留リスク一覧」を参照のこと。



機械上の個所が特定されない残留リスク

箇所 E	 危険	
	 警告	No6,7,8,9,10
	 注意	

残留リスク

■機械ユーザによる保護方策が必要な残留リスク一覧 (略称: 残留リスク一覧)

製品名: 「TWP02-8C」, 「TWP02-8M」, 「TWP04-8C」, 「TWP04-8M」

2018年10月19日 作成 アネスト岩田株式会社

※必ず取扱説明書をよく読み、理解してから本製品を使用すること。本資料は取扱説明書の参考資料であり、本資料の内容を理解しただけで本製品を使用してはならない。

残留リスクは、下記の定義に従って分類し記載している。

- ・⚠ 危険：保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が高い内容
- ・⚠ 警告：保護方策を実施しなかった場合に、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容
- ・⚠ 注意：保護方策を実施しなかった場合に、人が軽傷を負う可能性がある内容

「機械上の箇所」として示されている記号は、本製品の「残留リスクマップ」に記載されている機械上の箇所の記号である。機械上の具体的な箇所については、「残留リスクマップ」を参照のこと。

No	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上の箇所※2	危害の程度※1	危害の内容	機械ユーザが実施する保護方法	取扱説明書の頁
1	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスする時	電気工事士 または 専門業者	B	警告	感電する。	<ul style="list-style-type: none"> ・カバーを取り外して運転しない。 ・電気配線工事は有資格者に依頼する。 ・アースを必ずとる。 ・規定サイズの漏電遮断器を使用する。 ・ナイフスイッチ等のヒューズ式保護スイッチは使用しない。 ・電気配線を行う場合や電気品に触れる場合は、コンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P2 P3 P9
2	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	電気工事士 または 専門業者	B	警告	発火により火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・装置付属の電源用ケーブル以外を使用しない。 ・電気配線工事は有資格者に依頼する。 ・電気配線を行う場合や電気品に触れる場合は、コンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P2 P3 P9
3	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	-----	A	警告	ファンや回転部に手や工具等を近づけると巻き込まれ怪我をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・カバーを取り外して運転しない。 ・作業に入る前にはスイッチをOFFにしてコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P2 P3
4	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	-----	C	警告	圧縮空気が噴出したり、物が飛散することで怪我をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・カバーを取り外して運転しない。 ・安全弁のチェック時に安全弁に顔を近づけない。 ・保安機器の設定を無断で変更しない。 ・作業前には必ず圧縮機の空気をすべて抜き、圧力がないことを確認する。 ・作業に入る前には停止スイッチを押してコンプレッサを停止させ、必ず元電源を切る。 	P2 P15 P16

残留リスク

No	運用段階	作業	作業に必要な資格・教育	機械上の箇所※2	危害の程度※1	危害の内容	機械ユーザが実施する保護方法	取扱説明書の頁
5	運転	運転する時	-----	C	警告	圧縮空気を吸引して障害を負う。また、圧縮機周辺の大気中有毒ガス等が含まれていると、同じものが圧縮空気にも含まれるため、吸引すると人体に重大な影響を与える。	<ul style="list-style-type: none"> ・圧縮空気を直接吸引する呼吸器系の機器には使用しない。 ・周囲に有毒ガス等がない場所に設置する。 	P2
6	運転	運転する時	-----	E	警告	圧縮機が故障すると人命にかかわる設備が止まり人体に重大な損傷をあたえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・圧縮空気を人命にかかわる設備に使用しない。 	P2
7	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスする時	-----	E	警告	爆発・発火し怪我・火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・爆発性・引火性ガス、有機溶剤など、可燃物の付近に設置しない。 	P2 P7
8	運転 保守	運転する時 メンテナンスする時	-----	E	警告	感電する。 発火により火傷する。	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外に設置しない。 ・雨・蒸気が当たる場所、湿度が高い場所、結露しやすい場所に設置しない。 ・ごみやほこりが堆積する場所に設置しない。 	P3 P7
9	準備 運転 保守	設置する時 運転する時 メンテナンスする時	-----	E	警告	爆発・発火し怪我・火傷をする	<ul style="list-style-type: none"> ・空気以外を圧縮しない。 ・圧力開閉器の設定を指定以外に調節しない。 	P2 P11 P15 P16
10	準備	設置する時	-----	E	警告	コンプレッサが落下してはさまれたり下敷きになり怪我をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・質量に十分耐えられる(余裕のある)吊り具を使用する。 ・重心位置を考慮しバランスよく吊り上げる。 	P7
11	運転	運転する時	-----	D	注意	高温部に触れて火傷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・カバーを取り外して運転しない。 ・運転中や運転直後のコンプレッサ各部に手を触れない。 	P3 P12



はじめに

■ 重要なお知らせ




この取扱説明書には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために守っていただきたい事項を示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。

この取扱説明書は、すぐに確認できる場所に大切に保管してください。


● 注意喚起の表示

 警告	警告内容を怠った場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
 注意	注意内容を怠った場合、人が傷害を負う可能性、または物的損害の発生する可能性が想定されることを示します。

● 絵表示の例

	△ 記号は「注意すべきこと」を意味しています。記号の中や近くに、具体的な注意内容を表示します。(左の例は感電注意)
	⊘ 記号は「してはいけないこと」を意味しています。記号の中や近くに、具体的な禁止内容を表示します。(左の例は接触禁止)
	● 記号は「しなければならないこと」を意味しています。記号の中に、具体的な指示内容を表示します。(左の例は必ずアース線を接続せよ)

● 補足表示

 お願い	この記号は、機械の性能や機能を十分に発揮してお使いいただくために守っていただきたい内容を示しています。
--	---

※警告、注意の表示を無視して使用した場合の損害、損傷については、当社は一切責任を負えませんのでご了承ください。

● この商品の保証について

巻末に保証と修理サービスについての説明があります。よくお読みください。

はじめに

■安全上のご注意

ここに示した内容は、安全に関する重大な内容ですので、ご使用前によくお読みの上、正しくお使いください。

警告

安全な場所に設置

爆発性ガス、引火性ガス（アセチレン・プロパンガスなど）・腐食性ガス・可燃物のない場所に設置すること。

爆発・発火の原因になります。

電源の遮断

点検・配線作業時には必ず元電源を切ること。

感電・人体に重大な損傷を与える危険性があります。

有資格者に依頼

電気配線は電気工事士または電気工事店に依頼すること。

感電や火災の原因になります。

アース接続

アース工事を必ずおこなうこと。

感電や火災の原因になります。

空気以外のガスの圧縮禁止

空気以外の圧縮には絶対使用しないこと。

爆発・発火・破損などの原因になります。

吸入用使用禁止

圧縮空気を直接吸引する呼吸器系の機器には使用しないこと。

人体に重大な損傷を与える危険性があります。

使用禁止

圧縮空気を人命に関わる設備には使用しないこと。

人体に重大な損傷を与える危険性があります。

接触禁止

元電源が入った状態で回転部（ファン）に手を触れないこと。

手が巻き込まれることがあります。

圧力放出の実施

点検・整備をおこなう場合には空気タンクの圧力を必ず放出し、圧力のないことを確認してから点検・整備をおこなうこと。

部品が圧力で飛ぶことがあり、けがをすることがあります。

はじめに

<p>⊘ 屋外設置禁止 屋外には設置しないこと。(本製品は耐水構造となっておりません) 電気系統に水がかかると感電や火災の原因になります。</p>
<p>⊘ 水気禁止 室内で湿気の少ない場所に設置すること。 湿気の多い場所では、漏電や火災原因になります。</p>
<p>❗ 保守点検の実施 ゴミやほこりの少ない場所に設置すること。 電源系統に塵埃が蓄積すると火災の原因になります。</p>
<p>❗ 保守点検の実施 整備基準にしたがって、点検・整備をおこなうこと。 発火・故障をするおそれがあります。</p>
<p>❗ 予備機の準備 重要設備等に使用される場合はコンプレッサの予期せぬ停止に備え、必ず予備機やそれに代わる装置及び安全装置を装備すること。 重大な損害を与える可能性があります。</p>

注意

<p>❗ 規定温度で使用 周囲温度が2～40℃(運転中)の場所で使用のこと。 2℃以下ではドレンの凍結により、故障の原因になります。 40℃以上では寿命低下や故障の原因になります。</p>
<p>❗ 水平設置 水平で基礎がしっかりしている場所を選び、がたつきのないよう床面に設置すること。 設置が不安定ですと、コンプレッサが移動したり、異常振動や異音が発生する原因となります。</p>
<p>⊘ 改造禁止 コンプレッサの改造は絶対にしないこと。 破損事故や寿命低下の原因になります。</p>
<p>⊘ 接触禁止 運転中や運転停止直後はコンプレッサ各部に直接手を触れないこと。 火傷をするおそれがあります。</p>
<p>❗ 修理依頼 修理は専門の業者に依頼すること。 修理に不備があると破損事故や寿命低下の原因になります。</p>

目次

残留リスク

- 残留リスクマップ
- 残留リスク一覧

はじめに

- 重要なお知らせ 1
- 安全上のご注意 2

目次

- 目次 4

安全上のご注意／現品確認

- 警告表示貼り付け位置 5
- 現品確認 5

現品確認／各部の名称

- 形式の見方 6
- 付属品 6
- 各部の名称 6

設置場所

- 設置 7

配管／配線

- 配管 8
- 配線 9
- 配線図 10

試運転

- 試運転 11

日常運転の管理

- 運転開始 12
- 運転中 12
- 運転終了 13

保守・点検

- 保守・点検一覧表 14
- 分解上の注意 15
- 機能点検 15
- 組立上の注意 16
- 部品の購入について 16
- 廃棄について 16

故障かな？と思ったら

- コンプレッサ編 17

分解図

- コンプレッサ 19

保証と修理サービス

- 保証について 20
- 修理サービスについて 21
- お問い合わせ先 21

安全上のご注意／現品確認

■警告表示貼付け位置

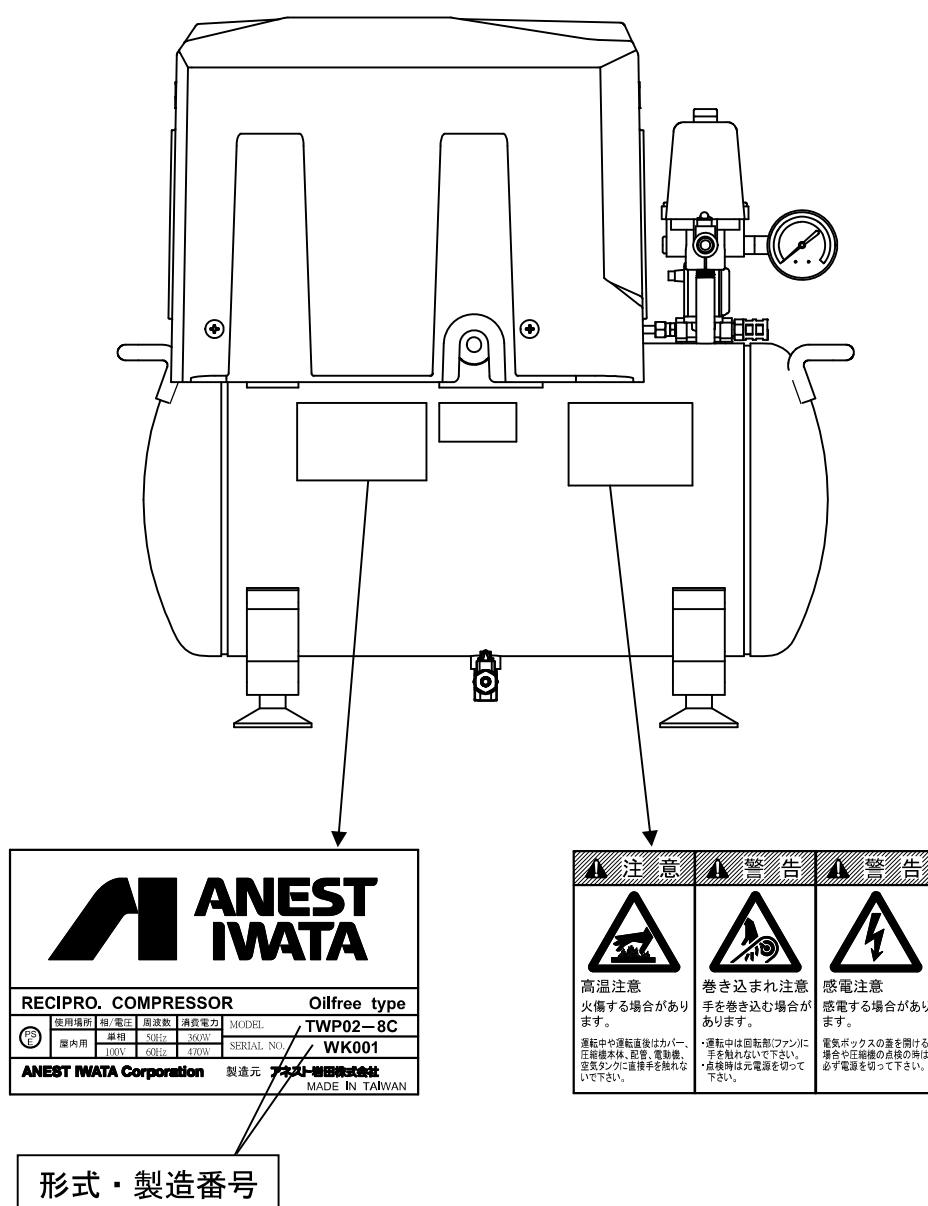
警告表示は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

表示銘板はお買い求めの販売店または当社支店・営業所にお申し付けください。

代表形式を図示しておりますので、形式により外観形状と貼付け位置の一部が異なります。

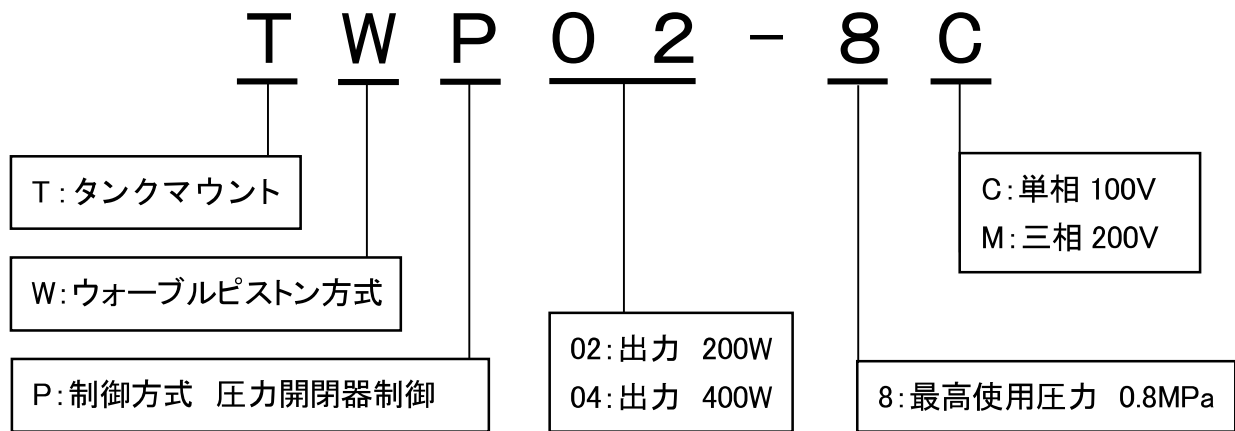
■現品確認

形式が注文どおりか現品を確認してください。



現品確認／各部の名称

■形式の見方

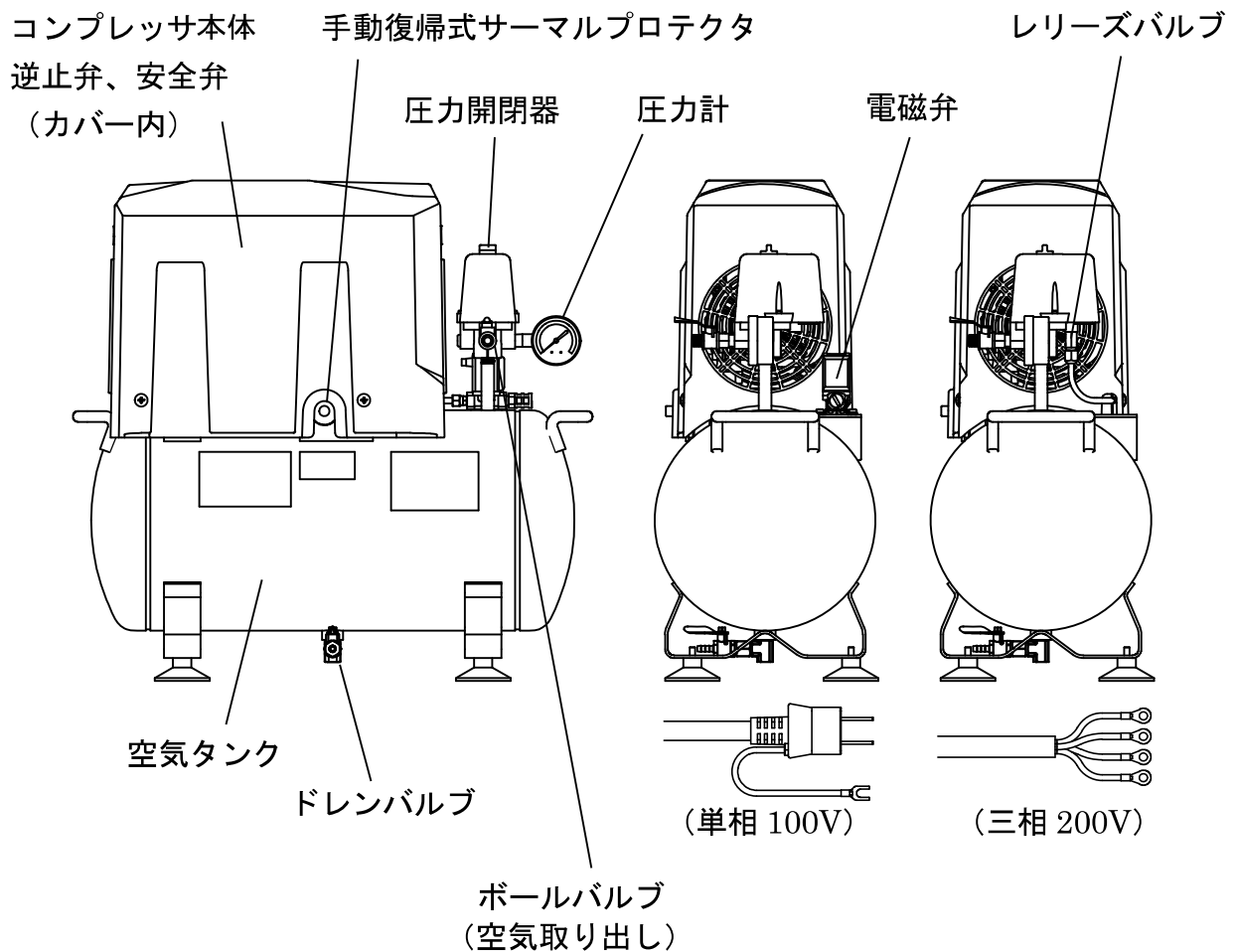


■付属品

付属品があるか、確認してください。

- 取扱説明書(本書) 1部

■各部の名称



※ボールバルブは工場出荷時には開放となっています。

設置場所

■設置

設置には下記の事項を必ずお守りください。

⚠ 警告

❗ 安全な場所に設置する

近くに爆発性ガス・引火性ガス（アセチレン・プロパンガスなど）・腐食性ガス・可燃物のない場所に設置すること。

不適当な場所では、爆発・発火事故の原因となります。

🚫 水気禁止

室内で湿気の少ない場所に設置すること。

雨水がかかったり、湿気の多い場所では、漏電や火災事故を起こす危険があります。

❗ 安全な作業する

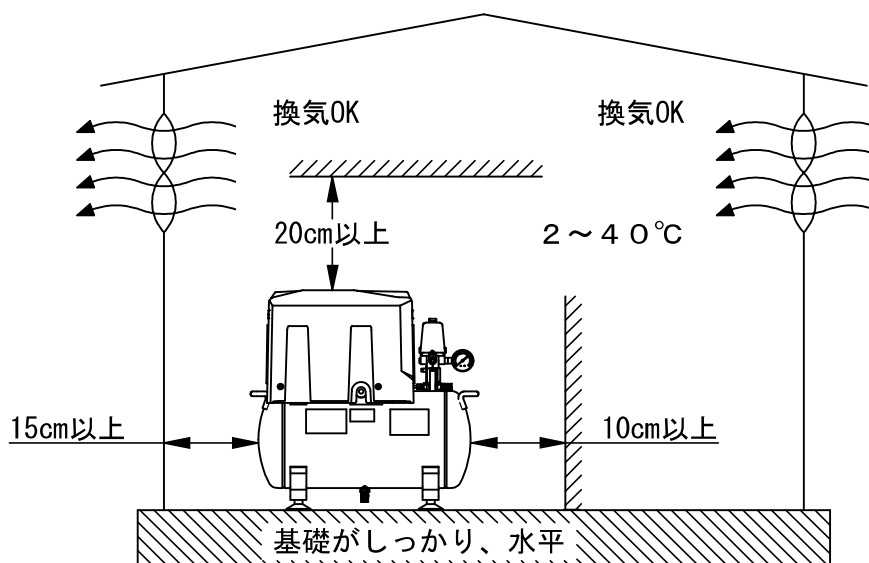
設置の際にコンプレッサを釣り上げる場合はコンプレッサの質量に十分耐えられるものを使用すること。

質量に耐えられない釣り具の場合、落下等の原因になります。

❗ 塵埃のない場所に設置する

ゴミやほこりの少ない場所に設置すること。

鉄粉・石粉・研磨粉・木屑などを吸い込むと、吸い込みフィルタの目詰まりによる性能低下や、コンプレッサ内部に異常摩耗を生じさせるなど、寿命低下の原因となります。



設置場所

⚠ 注意

❗ 規定温度で使用する

周囲温度が2～40℃で使用する。

2℃以下での使用は、起動不良やドレンの凍結によりコンプレッサ各部に作動不良が発生する原因となります。

40℃以上の使用は、ベアリンググリスの劣化やピストンリング摩耗を早め、寿命低下や破損事故の原因となります。

❗ 直射日光の当たる場所には設置しない

機械内部の温度が上がり、故障の原因になります。

👉 お願い

保守・点検が容易にできる場所に設置してください。

※ 次の場合には、必ず当社支店・営業所にご相談ください。

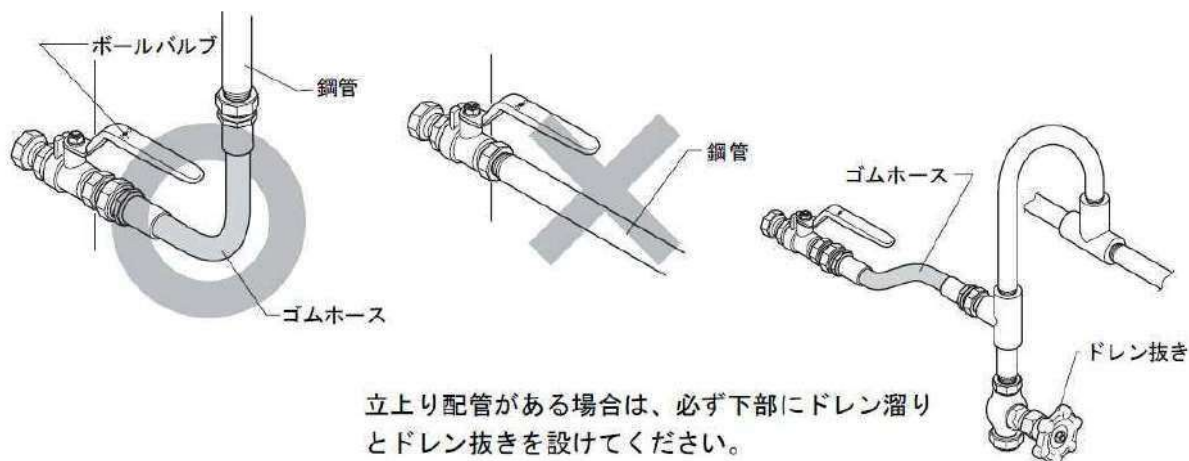
- ・屋外で使用したい場合
- ・圧力等を変更したい場合
- ・密閉された部屋で使用する場合
- ・その他、特殊な用途や場所で使用する場合

配管

■配管

鋼管で配管する場合は、コンプレッサのボールバルブと鋼管の間をゴムホースで中継してください。

- 鋼管に直接接続すると、振動により配管に亀裂が生じることがあります。
ゴムホースは、耐圧・耐熱用(JISK-6333)酸素用ゴムホースをご使用ください。
- ホースの両端に使うネジ継手はホースメーカー指定のものをご使用ください。



配線

■配線



警告



電源の遮断

配線作業は、必ず元電源を切っておこなうこと。

※ 感電の危険があります。



有資格者に依頼

電気配線工事は、電気工事士または、電気工事店に依頼すること。

※ 感電や火災の原因となります。



単独の電源に複数の接続禁止

電源は、必ず漏電遮断器を通して、1台ごと単独で接続とすること。

※ 感電や火災の原因となります。



規定以下の太さのケーブルの使用禁止

配線作業は、必ず元電源を切っておこなうこと。

※ ケーブルの過熱により火災の原因になります。

※ 電圧低下による起動不良、焼損の原因になります。



アースの接続

アース工事を必ず行うこと。

※ 感電や火災の原因となります。

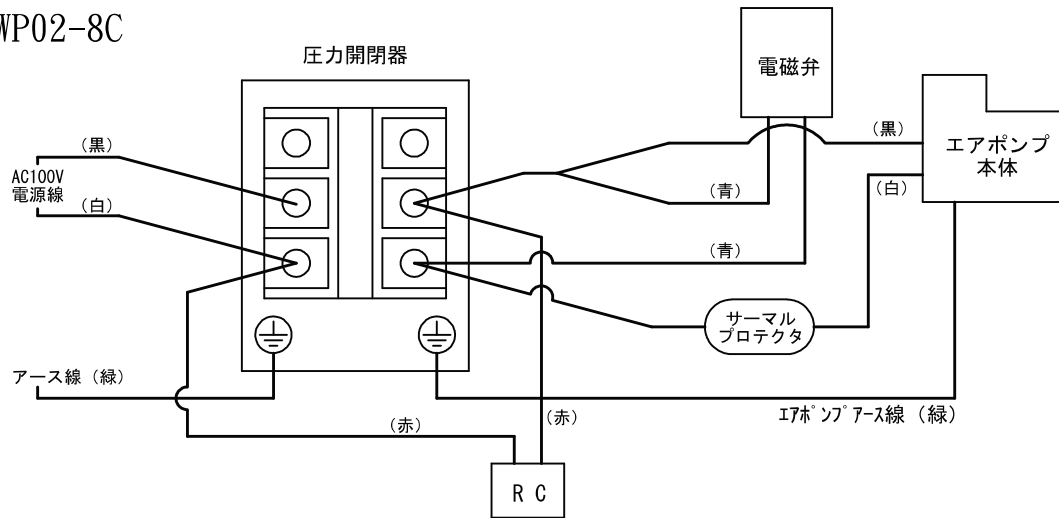
●配線容量は次のとおりです。

- ・ 右の表の配線の太さは、長さが 20m 以下の場合です。

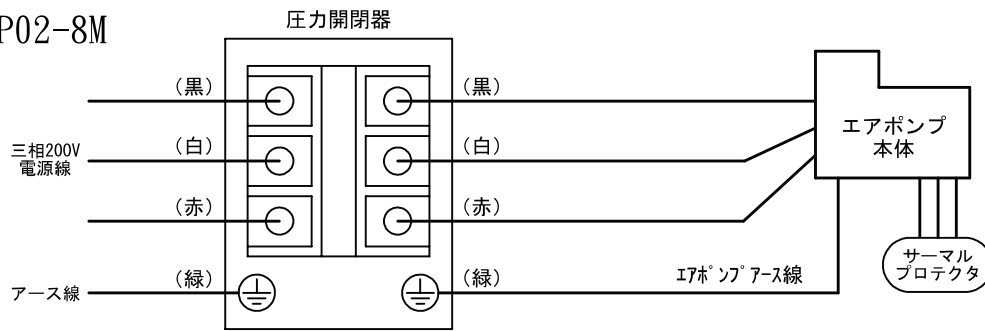
出力 (kW)	電源	配線容量	
		配線の最小太さ	漏電遮断器容量
0.2	単相 100V	2mm ²	15A
	三相 200V		
0.4	単相 100V		20A
	三相 200V		15A

配線図

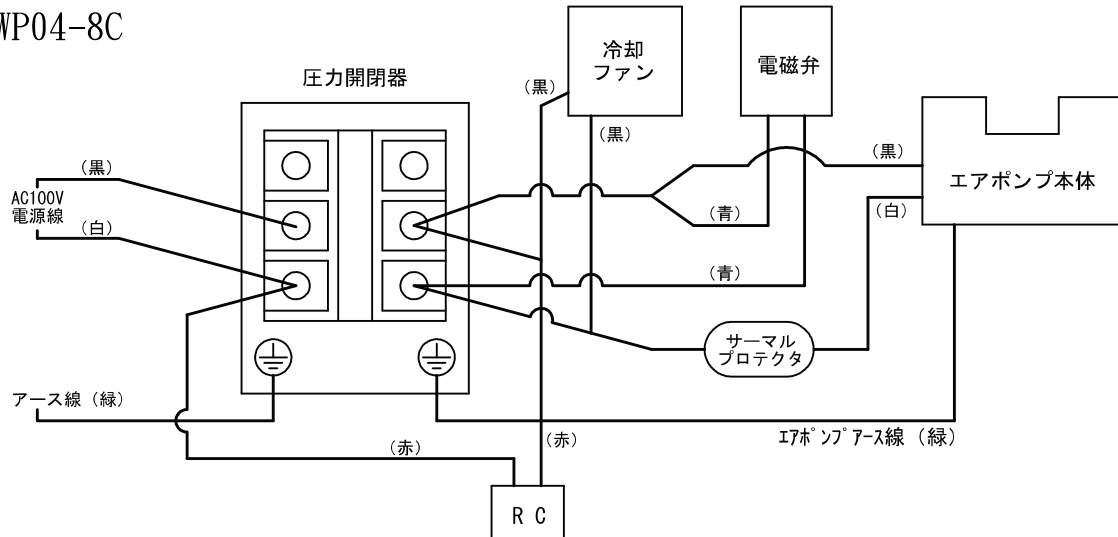
● TWP02-8C



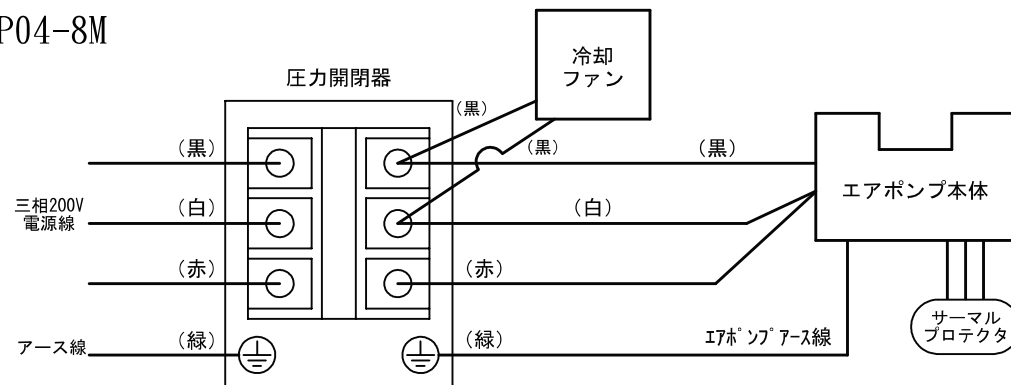
● TWP02-8M



● TWP04-8C



● TWP04-8M

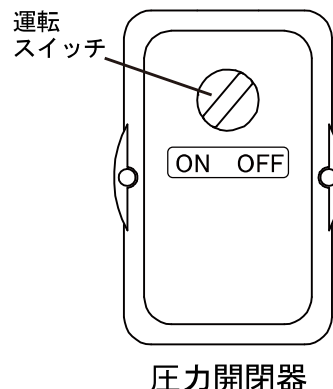




試運転

■試運転

●回転方向の確認（三相 AC200V 仕様の場合のみ）

- ・タンク内圧力を大気開放（配管をつなわずに空気取り出し用のボールバルブを全開にするなど）し、タンク内圧力がゼロであることを確認してください。
- ・樹脂カバーの隙間からコンプレッサ本体を覗き込み、回転部分（ファン羽根など）が視認できることを確認してください。
- ・圧力開閉器の運転スイッチをONにした瞬間の周り出し又は、OFFした直後の回転停止する瞬間を見て、回転方向が反時計回りであることを確認して下さい。



	注意
	回転方向の確認
逆回転のまま使用すると電動機の異常加熱や寿命の著しい低下が発生し、故障や損傷の原因となります。	
回転方向が反対の場合は、電源に接続した電源コード3本のうち、2本を入れ替えてください。	



●圧力が上昇しない状態でコンプレッサのならし運転を10分程度行ってください。

- ・空気取り出し口用ボールバルブを全開にしてください。
- ・圧力開閉器をONにしてください。※OFF側になっていると動作しません。
- ・異常音や異常振動がないかを確認してください。

●制御圧力の確認をしてください。

- ・ボールバルブとドレンバルブを閉じて、空気タンクの圧力が上昇することを圧力計で確認してください。
- ・P16に記載の作動圧力で圧力開閉器が動作し、圧力の上昇が止まることを確認してください。
- ・ボールバルブを少し開き、圧力がP15に記載の復帰圧力まで降下したときに圧力開閉器が動作し、運転が再開されることを確認してください。
- ・設定圧力がP15に記載の制御圧力と異なる場合は、P16に記載の調整方法に従って、設定圧力の再調整をしてください。

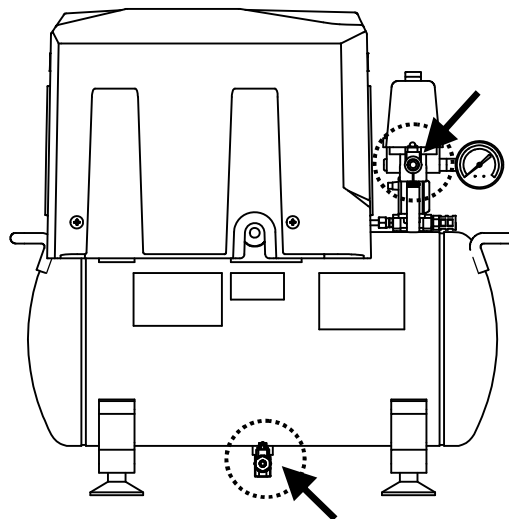
日常運転の管理

■運転開始

タンク内圧力が復帰圧力以上では、圧力スイッチの接点が復帰しておらずコンプレッサが運転を開始しない場合があります。

その場合には、空気取り出し用ボールバルブまたはコンプレッサ下部のドレンバルブを開放し、P15に記載の復帰圧力以下にしてください。

下部ボールバルブから排出する場合は、ドレンが出るため処理に注意ください。



■運転中

⚠ 注意

運転状態の時は操作部（ボールバルブ、圧力開閉器の運転スイッチ、手動復帰式サーマルプロテクタ）以外の部分に手を触れないこと。

- ※ 回転体でけがををする、あるいは高温部に触れて火傷をする危険性があります。



接触禁止

運転中に異常音（カンカン音や通常と異なる音）や異常振動（目で見て明らかに多い、グラグラする揺れ）が発生した時は、直ちに本機の運転を停止し、原因を取り除いて運転を再開してください。

⚠ 注意

保守点検時には必ず圧力開閉器の運転スイッチを OFF 側にした後に、元電源を切ること。

- ※ 運転スイッチが ON 時に元電源が切れ、電源が再投入された場合は自動的に運転を開始する可能性があります。
- ※ 元電源投入の際は、事故のないようご注意ください。



再起動時の注意

⚠ 注意

夏季においても、運転中の周囲温度が 40℃以上にならないよう、換気に注意すること。

- ※ 機械の故障や寿命低下の原因となります。

日常運転の管理

■運転終了

運転終了後、空気タンク下部にあるドレンバルブを操作し、空気タンク内のドレン及び圧縮空気を排出してください。

- ドレンは空気タンク内に錆を発生させる原因となります。
- 冬季には、凍結してドレンバルブ破損の原因となります。
- 圧力計の針上がりの予防ができます。

■長期間（1週間以上）運転しない場合

保管場所…下記のような場所に保管してください。

- 湿気や塵埃（鉄粉・木屑・砂塵・粉塵）の少ない場所。
- 腐食性ガス（アンモニア・酸・塩素ガス・塩分・亜硫酸ガスなど）が発生しない場所。

ドレン処理…下記処置を行ってください。

- 空気タンク内の圧縮空気が残っている間にドレンバルブを開けてドレンを完全に放出してください。最後にボールバルブも全開にして圧縮空気も完全に抜いてください。

※錆の発生・圧力によるシート部変形・摺動部の不具合発生を予防します。

元電源…必ず切ってください。

定期運転…1ヶ月ごとに下記要領にて運転してください。

- (1) 無負荷にて30分運転する。
- (2) 昇圧し制御圧力が正常に作動するか確認する。
- (3) 空気タンク内のドレンを完全に排出し、圧縮空気も完全に放出する。

保守・点検

次の点検項目を定期的実施してください。

点検整備は、下記を基準に実施してください。表に示した点検整備基準は、周囲温度が 40°C以下、年間平均温度 30°C、運転時間は年間 2000 時間の場合を想定しています。その他の条件は、設置注意事項によります。過酷な条件下で使用する場合は、点検時期を早めてください。

●例えば、24 時間連続運転で年間 200 日稼働する場合、点検整備基準は表の半分の時期としてください。

●点検整備基準は、保証期間とは異なります。

●点検要領欄の※印の内容は、お客様自身で対応することが難しい内容です。

お買い求めの販売店または当社支店・営業所に連絡してください。

■保守・点検一覧表

点検・整備は、運転時間または期間のいずれか早い方を基準に実施してください。

- は点検、● は交換を示します。
- ☆ の項目は、お客様自身で対応することが難しい項目です。お買い求めの販売店または当社支店・営業所にご連絡ください。




点検項目	点検整備基準			点検要領
	毎日	1カ月毎 200 時間毎	1年毎 2000 時間毎	
空気タンクのドレン抜き	○			点検方法は、P.12～13を参照してください。
異常音・異常振動	○			異常がある場合は、P.17～18を参照してください。
制御機器の作動 (圧力開閉器・圧力計)		○		異常がある場合は、お買い求めの販売店または当社支店・営業所にご連絡ください。
ボルト・ナット・ねじ類の緩み		○		緩みのある場合は、適切な工具で増し締めをしてください。
フィルタ(吸込口・サイレンサ)		○	●	エアブローを使用して粉塵を除去(内側から外側に向かい)します。汚れがひどい場合は交換してください。
圧縮空気の漏れ			○	最高圧力で30分間放置し、圧力低下が最高圧力の10%以内であることを確認します。 ※圧力降下が多い場合は、点検・整備をしてください。
空気タンク			○	銅、鏡板等の腐れ、膨れの有無を確認してください。
安全弁			○☆	漏れがないことを確認します。 ※漏れがある場合は交換してください。
総合点検	電装品 (圧力開閉器・電磁弁) 電動機・換気扇)		○☆	接点の荒れ、電動機の絶縁抵抗を点検します。 (リード線とアース線間の抵抗1MΩ以上) 退席した粉塵を清掃します。 換気扇の回転に異常がないことを確認します。
	接続管・ゴム脚・冷却ファン		○☆	硬化、ひび割れなどを点検します。

注1. 空気タンクの自主点検は、タンク容量が40L未満のため法的義務はありませんが、安全上から必ず実施してください。10年を過ぎて使用する場合、錆による内部の減肉点検を推奨します。期間は環境により異なります。

保守・点検

コンプレッサの分解・点検・組立上の注意

■分解上の注意



 警告		
コンセントを抜くなど、元電源を必ず切って作業をしてください。 ※ 急に運転状態になり、けがをすることがあります。		
空気タンク内の圧縮空気を完全に抜いてから作業をしてください。 ※ 分解時、部品が圧力により飛んでけがをすることがあります。	電源の遮断	圧縮空気を放出する

- 分解した部品は分解順序に従って、並べて置くと組立作業を間違えずに行うことができます。
- 各部品のはめ合い部分に傷をつけたり、変形させないように取り扱いには十分気をつけてください。
- 樹脂ファンは、羽根を掴んで回転やボルトの締め外しを絶対にしないでください。
※ 直接的な破損、または回転中の破損の原因となります。

■機能点検

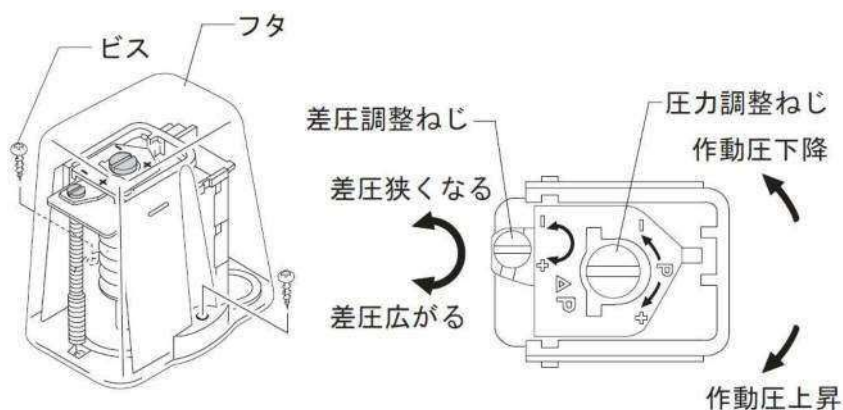
●圧力制御機器の設定圧力

形式	最高圧力 MPa	圧力開閉器の制御圧力			安全弁 吹き出し圧力
		作動（止まる） 圧力	復帰（動く） 圧力	差圧 （作動－復帰）	
TWP02-8C TWP02-8M TWP04-8C TWP04-8M	0.8	0.8	0.6	0.2	0.95

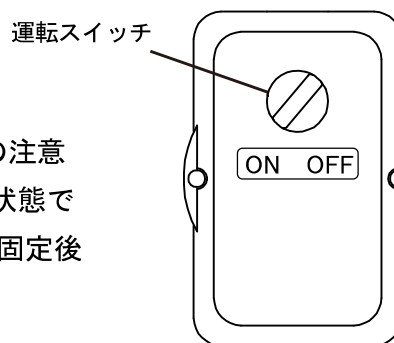
 警告	
安全弁の調整、基本設定圧以上への設定変更はしないでください。 ※ 安全弁は重要な部品です。設定を誤ると破裂などの重大事故の原因となります。	 圧力の上方への 変更を禁止する

保守・点検

2カ所のビスをゆるめて蓋を外します。図の位置にある圧力調整ねじを回すと差圧は変化せずに作動圧を調整できます。差圧は差圧調整ねじで広げる（+）狭くする（-）ことができます。調整範囲外の調整はしないでください。



※ 圧力開閉器のフタ取り付け時の注意
運転スイッチをONの位置にした状態でフタを取り付け、2カ所のビスで固定後にOFFの位置に戻してください。



圧力開閉器フタ

■組立上の注意

●各部品は軟らかい布などで清掃してから組立てください。

■部品の購入について

部品をご購入の際は、本機の形式と付属の分解図と部品表を参考にして、ご必要な部品名と部品番号をご指定のうえ、お買い求めの販売店または当社支店・営業所にお申し付けください。

■廃棄について

地方自治体によって異なります。

事業所の所在地の区、市役所および町村役場の担当窓口で確認してください。

故障かな?と思ったら

万一異常が起こった場合には、まず、お客様で下表を参考にして点検をしてください。原因が特定できない場合、原因が特定できてもお客様では対応が難しい場合は、お手数ですが、お買い求めの販売店または、当社支店・営業所にご相談ください。

■コンプレッサ編

現象	原因	対応方法
始動しない または 始動しても 電動機がうる	元電源が入っていない。	元電源を入れる。
	空気タンクに圧力があり、 圧力開閉器が作動している。	空気タンクの圧力を作動圧力以下に下げ、始動を確認する。(作動圧力については「保守・点検／機能点検」の項を参照)
	元電源のヒューズが切れている。 または、ブレーカダウンしている。	「元電源のヒューズ切れ・ブレーカダウンが発生する」の欄を参考に、異常のないことを確認し、ヒューズを交換、または、ブレーカを入れ直す。
	電源コードが切断している	電源コードを交換する。
	単相運転となっている。 (三相仕様の場合)	電源コード・電動機コードを確認し、ネジの緩みや配線を直す。または、交換する。
	電圧が低い。 (起動時の電圧降下大きい)	「配線」の項を参照し、電源コードの太さを確認する。規定より細い場合は交換する。 電源電圧/電圧降下を測る。 注意1 参照 電源容量を確認する。容量が足りない場合は、電力会社に相談する。
サーマルプロテクタが 作動している。	元電源を切り、5分程待ってからサーマルプロテクタの復帰ボタンを押し、運転スイッチを入れてください。 サーマルプロテクタ作動原因は、下記にて調査ください。	
サーマルプロテクタが頻繁に作動する	コンプレッサの周囲温度が高い。 (「設置場所/設置場所」の項を参照)	コンプレッサが設置されている部屋を換気する。
	電圧が低い。 (起動時の電圧降下大きい)	現象「始動しないまたは始動しても～」の原因「電圧が低い」の対応方法を参照ください。
元電源のヒューズ切れ・ブレーカダウンが発生する	元電源のヒューズ・ブレーカ容量が足りない。	「配線」の項を参照し、十分な容量のヒューズ・ブレーカに交換する。
	電源コードの破損等によるショートが発生した。	電源コードの状態と結線を確認する。 破損していれば交換する。
制御圧力上限に達する前に停止する	圧力開閉器の設定値が変化している。	「保守・点検／機能点検」を参照し、圧力開閉器を調整する。
	圧力計が故障している。	新品に交換する。 注意2 参照
安全弁が吹く	安全弁の吹出し圧力が変化している。	吹出し圧力を確認する。 異常が無い場合は、圧力開閉器を調整する。 設定圧力以外で吹く場合は、新品に交換する。

注意1 ———— 電圧を測定するときは、感電に十分注意し事故のないように測定してください。

注意2 ———— 交換・分解前に必ず空気タンク内の圧力を完全に抜いてください。

故障かな?と思ったら

現象	原因	対応方法
圧力が上がらない または圧力上昇に 時間がかかる	ドレンバルブまたは使用しない止め弁の締めを忘れている。 設備配管から漏れている。	締め直す。 締めても漏れる場合は、交換する。 漏えい部を修理する。
	各部の継ぎ手ねじ部から漏れている。	締め直す。
	吸込濾過器が目詰まりしている。	吸込濾過器の清掃または交換する。
	安全弁から漏れている。 (安全弁のシート部分からの漏れ)	交換または清掃。 専門の業者に依頼してください。 注意2 参照
異常振動または異常音がする	据付に不良がある。 部品の取り付けにゆるみがある。	「設置場所 ■ 設置場所」の項に従い水平に据付ける。 部品取付ねじの締め直しをする。
ドレンバルブから水も空気も出ない	ドレンバルブがつまっている。	ドレンバルブを清掃する。 清掃しても出ない場合は新品に交換する。 注意2 参照
	空気タンク・ドレン配管の内部が凍結している。	暖めて解凍する。設置環境を確認する。 (「設置場所 ■ 設置場所」の項を参照)

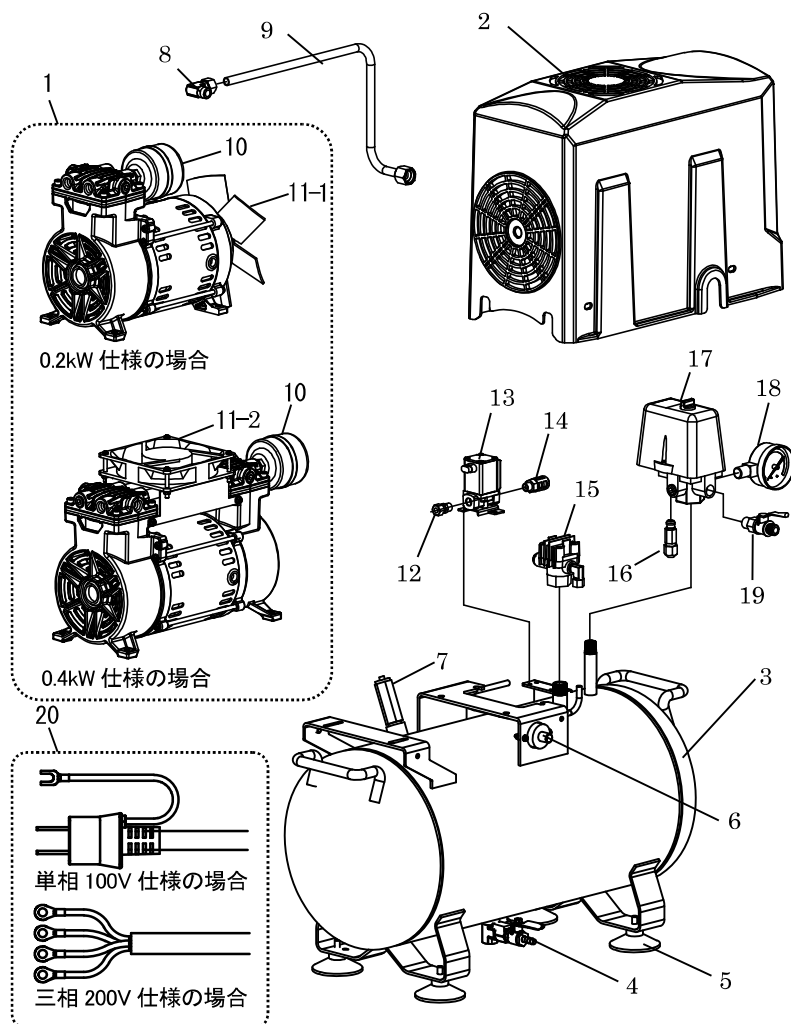
注意1 ———— 電圧を測定するときは、感電に十分注意し事故のないように測定してください。

注意2 ———— 交換・分解前に必ず空気タンク内の圧力を完全に抜いてください。

分解図

■コンプレッサ

●立体分解図



●部品表

番号	部品名	個数
1	コンプレッサ本体	1
2	カバー	1
3	空気タンクセット	1
4	ドレンバルブ	1
5	ゴム脚	4
6	サーマルプロテクタ	1
7	安全弁	1
8	エルボユニオン	1
9	接続管セット	1
※10	吸込口セット	1
11-1	冷却ファン	1
11-2	換気扇	1
12	ハーフユニオン (単相 100V 仕様のみ)	1
13	電磁弁 (単相 100V 仕様のみ)	1
※14	サイレンサ (単相 100V 仕様のみ)	1
15	逆止弁	1
16	リリースバルブ (三相 200V 仕様のみ)	1
17	圧力開閉器	1
18	圧力計	1
19	ボールバルブ	1
20	電源コード	1

※印の部品は、消耗品です。

●仕様表

形式	TWP02-8C	TWP02-8M	TWP04-8C	TWP04-8M
出力 kW	0.2		0.4	
電源	単相 100V	三相 200V	単相 100V	三相 200V
運転制御方式	圧力開閉器制御			
回転速度 (50/60Hz) min^{-1}	1400/1650	1450/1740	1410/1660	1440/1720
吐出空気量 L/min (50/60Hz)	21/25		37/45	
吐出し圧力 MPa	0.8			
空気タンク容量 L	22			
空気出口管径	G1/4 オス (ボールバルブ)			
外形寸法 mm (幅×奥行×高)	565×250×530			
質量 kg	22		24	
騒音正面 1.5m dB (A) (50/60Hz)	55/58		59/61	

保証と修理サービス

■保証について

保証書（保証規定）

お買いあげの商品を本取扱説明書にしたがって正常のご使用状態で万一故障が起きましたときは、本保証書の記載内容により無償修理いたします。

形式	TWP	品名	レシプロコンプレッサ
お客さま	御社名		
	お名前		
	ご住所 〒□□□-□□□□		
	TEL () -		FAX () -
保証期間	お買いあげ日 年 月 日から 2500 時間または 1 年間 (どちらか早く到達した方)		
販売店	販売店		
	住所 〒□□□-□□□□		
	TEL () -		FAX () -

●無償修理を受けるための条件および手続きと保証範囲

- (1) 本保証書をご提示の上、お買い求めの販売店または当社支店・営業所にご依頼ください。
- (2) 保証書に記入した内容（お買いあげ日、販売店）を確認できる納品書等を提示願います
- (3) 保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
- (4) 本製品の故障または不具合に伴う生産補償、営業補償などの二次補償に対する保証はいたしません。

◆次の場合は保証期間内でもお客さまのご負担（有償）になります。

- (1) 本保証書のご提示がない場合
- (2) 本保証書にお名前、お買いあげ日、販売店名の記載がない場合あるいは字句等を書換えられている場合
- (3) 取扱上の不注意・取扱説明書の記載事項を守られなかったことによる故障および損傷
- (4) 消耗品の交換・修理など説明書に記載されたメンテナンスを実施していない場合
- (5) 指定外の動力源(電圧、周波数、燃料他)または天災・地変(火災、地震、水害、塩害、落雷、公害など)による故障および損傷
- (6) 純正部品以外の部品が使用されている場合
- (7) 当社指定の修理店以外による修理がなされている場合

保証と修理サービス

●法的責任

本保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがって、本保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等またご不明の点はお買い求めの販売店または当社支店・営業所までお問い合わせください。

●保証書の保管

「保証書」は、内容をよくお読みになったうえで、「お客様のお名前・ご住所」、「お買いあげ日」、「販売店」など必要事項については、誠に恐縮ですがお客様でご記入しただき、納品書とともに大切に保管して下さるようお願いいたします。本保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保管してください。

■修理サービスについて

●修理・メンテナンス等を依頼されるときは

お買い求めの販売店または当社支店・営業所にご相談ください。
このときお買いあげの商品の形式名およびお買いあげの時期をお知らせください。

●保証期間経過後の修理は、修理により機能が維持できる場合、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

詳しくはお買い求めの販売店にご相談ください。
その他ご不明な点はお近くの当社支店・営業所へお気軽にお問い合わせください。
なお、最新のお問い合わせ先につきましては当社ホームページ <http://www.anest-iwata.co.jp> をご覧ください。

お問い合わせ先



<https://www.anest-iwata.co.jp/contact>

土・日・祝日(弊社休日含む)にお問い合わせいただいた場合、翌営業日以降のご回答となります。

アネスト岩田株式会社

コードNo. 01006500
C091-03